



マーシャル方面遺族会
 (旧クエゼリン方面戦没者遺族会)
 中央区日本橋蛸殻町2-11
 泉商事株式会社内
 電話 東京(661)6241
 振替口座東京93487 番
 編集兼発行人 浮田信家

お訣れにのぞみ

ドワイト・ハイネ

本席は貴会の名において、あなた方が、その重大な任務を完遂した意味で、又あなた方の帰国を待ち焦れている会員諸兄への報告準備が完了したという意味で、お招ねき下さったことを来賓一同に代り、御礼申し上げますと同時に永く記憶に残ることをお約束します。

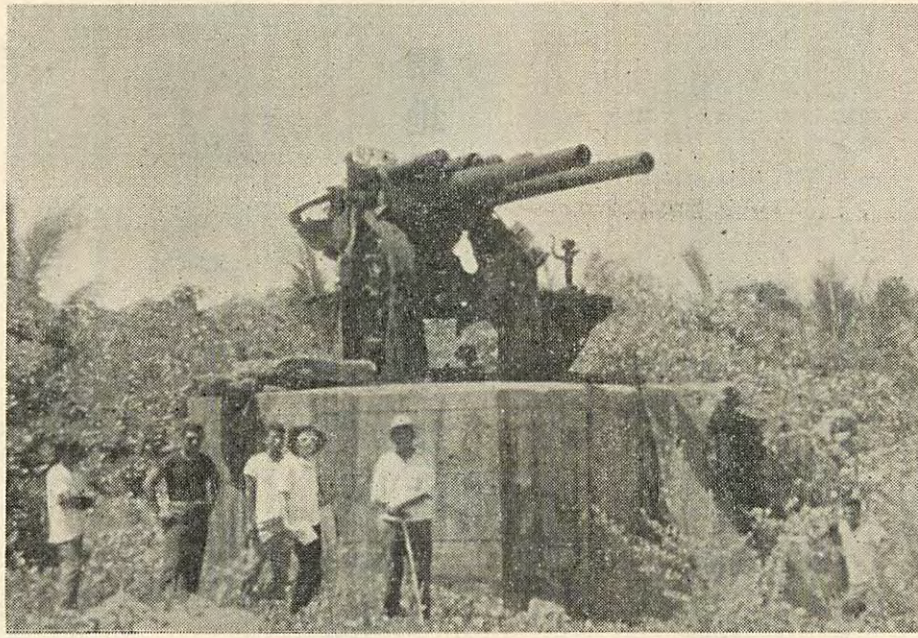
私はあなた方の訪問された総ての島の人々があなた方を親切におもてなしたと承って心から満足いたします。このためあなた方の巡航が単に素晴らしい成果をあげただけでなく、苦勞なく過せたと知り心から喜びます。あなた方が訪問の全島から御採取になった砂は、その島で出来た砂というより、もつと大切な成分が沢山含まれております。農学者には不毛の土にしか過ぎないでしょう。しかしこの砂は、私どもに豊かな食物を与えてくれ、綺麗な花を楽しませてくれます。その上に家を建て、その中に肉親の骸を葬ります。あなた方の最愛の同胞も、ここに埋葬され、平和の中に安らかに眠っておられます。

貴会は日本とマーシャルとの深い友情を結ぶ糸口を造るのに大きな貢献をして下さいました。帰国されましたら会員の方、国民の皆様にもマーシャルの者が、あなた方に厚い好意を寄せ、親切であったことをお伝え下さい。私どもはあなた方の肉親の霊をお護りつづけます。最後に私達一同は私達の言葉の中から YOKWEIYACHOE という一語をお贈りいたします。この一語自身立派なメッセージであり「愛」ということを意味するものであります。

(マーシャル地区行政長官)

ヤルート環礁イミエジ島に残る

わが十二・七糧聯装高角砲



目次

お訣れにのぞみ ドワイト・ハイネ (1)

現地調査・収骨・慰霊の終了に謝す 会長 林 茂清 (2)

現地派遣員帰還報告 (2)

本会々長靖国神社御創立百年奉祝奉賛会理事に委嘱さる (3)

マーシャル諸島の遺骨帰 (4)

ギルバート諸島の霊砂 (4)

エビゼ島の思出 (5)

昭和四十三年二月六日の慰霊祭御案内 (5)

クエゼリン本島に建立の戦歿者忠魂慰霊碑について (6)

寄附者芳名 (6)

事務局だより (12)

役員篤志会員 (12)

本 部 (12)

御参考

環礁第七号を以てお訣となる
 かもしれない方々のために

現地調査・収骨・

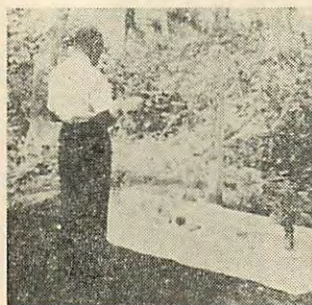
慰霊の終了に謝す

会長 林 茂 清

昭和三十八年クエゼリン方面戦及者遺族会として誕生してから、満四年、現地の様子が知りたいばかりに、石橋顧問はじめ副会長、役員各位は、部外の方には到底察知できない御苦労をつづけて下さいました。この間何回か厚生省にも外務省にも国の力で打開されたい旨歎願しつづけてきましたが、一はこの地区は昭和二十八年政府派遣団が南方八島慰霊のとき終了したので二回はやらぬと、一はこの地域は米国の制限地域だから接渉は徒勞であるとして本会の願いは叶



玉砕の地タラワ島にのこるわが二十種砲



祭文奉読 — マジユロにて —

へられませんでした。己むを得ず、皆様方が切歯扼腕異常の努力を傾むけて下さった結果が今回の実を結びました。この蔭には現地派遣員は勿論留守を守った役職員の方々それに会員御一同の並々ならぬ御努力と推進力がかくれているのでありまして、政府の力をもつてしても手の出なかつたことを本会自体で美事為し遂げました。全島をくまなく廻った派遣員の報告によれば現在戦死者の遺骨の散在するものなく、米軍或は島民の手によって埋葬され、今は平和な人情豊かな島民によって、安らかな眠についているとのことでありました。茲に会員御一同とともに、本会の目的中最大の彼岸の達しましたことを祝したいと存じます。

私共兩名は、昨年二月の定期総会での議決に基いて、四月二十三日横浜発、現地マージナル諸島、ギルバート諸島に行き、諸調査、収骨、慰霊の行事を行ってまいりました。

(一) 現地に関するアメリカの機密取扱いの程度が全く不明であること

(二) マージナル諸島内、ギルバート諸島内、及び両諸島間の船便が全く不明であること

(三) 現地食料事情の不明であること

現地派遣員帰還報告

常任幹事 浮田 信 家
幹事 佐竹 エ ス

人、軍属の方々等極めて広範囲に亘り教えを乞いました。その結果は出発にあたり同諸島に因する限り、沿革、戦間経過、政治経済、住民の日常生活、天象、地象、ある程度人間関係等脳裡におさめることができましたため、自信を以て現地に向うことができたのであります。

行動概要

マージナル諸島、ギルバート諸島を合せますと南北約一〇〇〇哩、東西約八〇〇哩、現在の日本がそのまま入るといふ広い海域になります。中に赤道をはさむ全

域が熱帯圏にあり、日本よりもむしろハワイ諸島に近い位置を占めております。

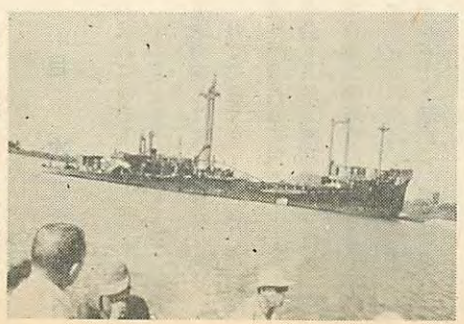
こんな広い海域を運航する船はコブラ集荷船として使われる四〇噸にも充たない三隻の汽船、しかもいつも一隻は故障のため行動ができないという状況でありました。船便をつかむこと自身容易でないというのが現状なのであります。まず二月に出発を予定しておりました船が、十日二十日と延びて、実際出港しましたのが、四月二十三日でありました。同日横浜を

もお尋ねしましたが皆目判りませんでした。旅行者も少ない辺僻なところでありますから、どの旅行社にも資料がありませんので、すべて本会自体で資料を集めて、派遣計画を樹てなければなりません。この間役員一同の苦心又これに伴う相当大きな経費も支払われていたのであります。

米本国は勿論、サイパン、グアム、クエゼリン、マジユロの米國官庁、タラワ、マキン、オーシャン、ナウルの英、濠洲国各官庁、在京英米濠洲大使館、領事館、又国内では防衛庁、同戦史室、海上保安庁水路部、同氣象台、その他多数にのぼる現地より帰還の元軍

に民需品を卸し、五月二十三日クエゼリン本島の埠頭に横付しました。ヒレリー司令官の代理としてジョー、ジー、ウォーターマン陸軍中佐が来船し、従来まじの謝礼や今後の希望も打合せました。何れも快諾を得ました。船上から島内施設の説明も聞きました。碇泊二日、五月二十五日クエゼリンを出港、翌二十六日目的地マジユロ港の埠頭に横付けしました。

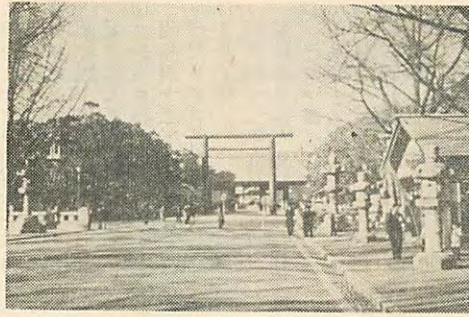
丁度伝染病流行のため六月七日の解禁まで島外へ出れず、閉ちこめられました。この間は長官はじめ有力者も全員在島したので面会の機会多く、屢々連絡も出来たので爾後の諸折衝に誠に好都合でした。しかし十二月マジユロ出港まで、船便の都合とはいえ本当に苛しい半月でした。



ヤルトリ環礁アイネマン島に残る沈船 船上に椰子茂る

本会々長靖国神社御 創立百年奉祝奉賛会 理事に委嘱さる

明後昭和四十四年に靖国神社は御創立百年の嘉年を迎えることとなりました。就いては奉賛会発足の準備会が本年五月十一日に開催され趣旨や諸計画の説明がありましたが、その結果九月二十六日本



靖国神社

会々長も、奉賛会の理事を委嘱されました。一地域の遺族のみをもつてする遺族会は、全国的にも、他に例がありませんが、中でもこの奉賛会に理事として委嘱されたのは本会でありませぬ。

ロエラップ環礁、アウル環礁、アルノ環礁、ミレ環礁を訪ね、十八日間、五二六哩の航海の後、六月二十九日マジユロに帰りました。アウル環礁やアルノ環礁は本会と直接関係なく、我々には有難くない航海ではありましたが、これ以外に便船もありませんので、致し方ありません。

ここでまた半月船待ちになりました。七月十五日前と同じくミリトビがヤルト環礁、キリー島、ナムリック島、エボン環礁を回ると聞き乗船し、マジユロを出ました。ヤルト環礁の他は本会に関係ないため帰航の際ヤルトに寄つてもらうことを約しヤルトで一且下船しました。早速ジャポール島、ヤルト島、ユニポール島、イミ

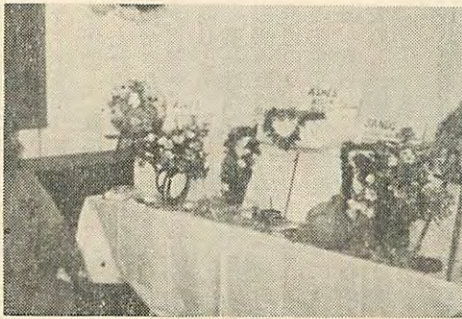
エジ島を訪れた十九日にコブラ集貨船ラリック、ラタック号が濠州米を運搬のためナウル島に向うことをラジオで聞きました。早速カトリック教会の短波を使わせていただき同船をヤルトに回航して貰い二十日に乗船したラワ、マキン更に赤道を超えて、オージンヤン島、ナウル島に寄りました。マジユロを出てから十八日一五六三哩の航海の後八月四日マジユロに帰りました。

十日程船待ちの後八月十二日再びラリック、ラタック号に乗船し、マーシャル諸島の北部即ちエビジエ島、ロンゴラップ環礁、リキエップ環礁、アイルック環礁、ウトロック環礁、メジチ島を訪れ、二十二日間一四八八哩の航海の後九月二日マジユロに帰りました。六月二十六日ミレ島を訪れた時、ミレトビの予定が急変したため、

慰霊祭が未済であったが幸い発動機船ミウラ(ハトン)がチャーターしてきたので、九月七日乗船、夕刻マジユロ発、夜航海でミレ島にゆき八日は終日視察、撮影、慰霊祭を行い、再び夜航海で帰り、九日早朝マジユロ港に帰投しました。丁度運良く往路と同じくパシフィックアイランダー号が九月十二日マジユロに入港したので乗船し、九月十七日マジユロ発、クサイ島、ボナベ島、トラック島、グアム島、サイパン島、テニアン島を訪れ、十月十九日無事横浜に帰着しました。

全航程一万九百哩、派遣期間一八二日中船上生活一三二日という行動でした。

なおこの間長官はじめ、各界の有力者の親切は筆舌につくしがたいものがありましたので、マジユロを去るに先立ち、長官はじめ主



船室内に豊砂安置
—マジユロサイパン間—

な方五十夫妻を招き、お執れと、御礼の夕食を共にしました。表紙の挨拶はそのときのドワイト・ハイン長官の謝辞であります。

取骨

取骨が最も重要な目的でしたので、どの島に行つてもまず遺骨の有無を調べました。

マリヤ諸島やカロリン諸島の島には山がありますので、海上からのながめは日本の島とかわりませんが、マーシャル諸島、ギルバート諸島は違います。

墓標

戦死の場所に墓碑を建てることは遺族の願いの一つである。しかし土地の法規や習慣、地主のこともあって容易でない。このため本会からは予め各地に書面を送り趣旨を説明し協力をもとめたが各地とも了解し左のようにそれぞれ適当の場所に建立できたことは御同慶にたえません。

地名、建標年月日、建標場所の順に記載します。

1 タロア島(マロエラップ環礁)
昭和四十二年六月十四日

2 タロア島の南に接続のエオニビ
ゼ島中央、警備隊が建設の日本人墓地跡

3 ミレ島
昭和四十二年六月十八日

4 イミエジ島(ヤルト環礁)
昭和四十二年七月十八日

また戦死者を生じた激戦のあったところは戦争直後は椰子の木も残さぬほどの焼野原でした。このような島に島民は離島から帰って来ましたが、遺体があればすぐ鄭重に埋葬して下さったと聞きました。

ミレ島の某生還者から「極度の栄養失調で体力を失った将兵二〇〇人をかり集め、戦車を引張らせ、夜おそく現在の位置まで移動させ

られたのです。二世の米軍中尉が戦車の上にあぐらをかいて怒鳴りながら私共を使役したことを思い出します」とそんな様子を見た島民は日本軍人軍属に好意を寄せたのでしよう。遺体は米軍に気づかれないよう鄭重に葬りましたと随所で耳にしました。

戦争直後の焼野原、島の幅、広さ、島民の日本人に対する好意、現実に調査の結果等から、遂に一片の遺骨も散在しているのを見ま

せんでした。

昭和三十二年六月二十六日

ミレ島の東に連なるブクバル島の中央

昭和三十二年七月十八日

昭和三十二年七月十八日

昭和三十二年七月十八日

昭和三十二年七月十八日

元六十二警備隊が遺骨安置の防
空壕跡

5 タラワ島

昭和四十二年七月二十二日

6 マキン島

昭和四十二年七月二十四日

金光隊長墓跡

7 オーション島

昭和四十二年七月二十六日

松岡医師記念碑隣

8 ナウル島

昭和四十二年七月三十一日

外国人墓地第一号

9 ウォツゼ島

昭和四十二年八月三十一日

元日本人墓地跡

10 マジュロ島

昭和四十二年九月六日

ベゲリアン島中央

11 クサイ島

昭和四十二年九月十九日

海岸の日本人墓地跡

12 ブラウン島

13 クエゼリン島

両島とも現在上陸できず。ヒ
ーレー司令官に建標を依頼し
て来ました。

慰霊 祭

建標場所は清掃の後、祭壇を設
け、日本から携えた白米を炊いた
白飯、温い味噌汁、お茶、漬物を
はじめ将兵が片時も忘れなかつた
日本酒、煙草、菓子、あんど他二
十余種を供え、靖国神社鈴木禰宜
謹書による祭文を奉読しました。
地味ではありますが、心のこもつ
た祈りを捧げました。

住民の感情

戦後をはじめ訪れる日本人なの

で、島の人達が私共を、どう見る
か心配でした。私は子供の頃日清
日露の戦争で負けた国をチャンコ
ロだのロスヶだのと軽蔑している
のをよく見ました。ですから今度
は負けた国の我々を何と罵るかが
心配でした。彼等は戦争のため肉
親を失い、家財道具は焼かれまし
た。あてにしまった勲章(彼等はいま
だに勲章に憧れています)も貰え
ず、沢山の怨がある筈です。

ところが船がサイパン、グアム
トラックと進んでも罵りの気配が
ありません。マジュロに着いて、
この心配が全く杞憂であったこと
がわかりました。日本人にはとて
も親切であり、日本人と話したく

マーシャル諸島・ギルバート諸島の

(遺骨(姓名不詳)十二柱) 帰る
霊砂—二十七島分

別項記載のとおり、現地派遣員
は、大東亜戦争戦争中この地域で
戦闘のあつた次の二十七島から、
砂を採集し霊砂として迎えてまい
りました。(五十音順)

- アイルック島(アイルック環礁)
- アオン島(ウートロック環礁)
- イミエジ島(ヤルト環礁)
- ウートロック島(ウートロック環礁)
- ウオツジエ島(ウオツジエ環礁)
- エニポール島(ヤルト環礁)
- エビジエ島(クエゼリン環礁)
- オーション島
- クサイ島
- グアム島

てたまらないという感じでした。
この原因は一は戦争期間を含め
委任統治時代の日本の施策が良か
つたこと、もう一つはサイパンの
高等弁務官が本会の現地派遣目的
を理解し、既に昭和四十一年暮か
ら充分の協力、便宜をはかるよう
指令されたためと思いま
す。ギルバート諸島の場合も全く
同じでありました。

現在遺骨の散在するところなく
紺碧の海の中の緑の椰子、純白の
浜辺の島、島には四季を通じ様々
の花咲く環境に、温い人情に護ら
れ、安らかに眠るさまに、心から
安心し帰国した次第であります。

- サイパン島
- タラワ島
- タロア島(マロエラップ環礁)
- トリアン島
- トラック島
- ナウル島
- ブラウン島(ブラウン環礁)
- ポナペ島
- マキン島
- マジュロ島(マジュロ環礁)
- ミレ島(ミレ環礁)
- メジチ島
- ヤルト島(ヤルト環礁)
- リキエツプ島(リキエツプ環礁)
- ルオット島(クエゼリン環礁)
- ロンゴラップ島(ロンゴラップ環礁)

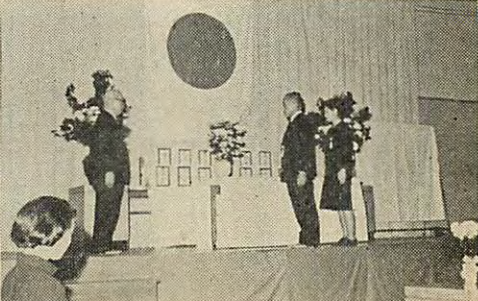
環礁)

霊砂は報告会の日派遣員から会
長に引渡され、それからは本部で
鄭重に保管しております。従来ど
おり御希望の方にお願いいたしま
す。量に限度がありますのでこれ
また従来どおりお一人二十グラム
程度であることを御承知の上同封
のはがきに所要事項御記入、本部
にお申出下さい。

毎回お問い合わせがありますので
予め申上げますが、郵送の費用だ
け御負担下さいませよう願いま
します。御申込みが殺倒すると思
いますので、二月六日の慰霊祭に
御出席の方にはその際にお受取
下さるようお願いいたします。

なおブラウン島については本当
に長い間お待ちして申わけあり
ません。機密地帯でありますた
め、いまだに米国防軍省の特別許
可のない限り、誰も訪れられませ
ん。このため派遣員が、クエゼリ
ン島に寄港のとき、ヒーレー司令
官に依頼し、米軍用機でブラウン
島から空輸したものを受領し、お
迎へしたものであります。

霊砂引渡式—現地派遣員より会長へ

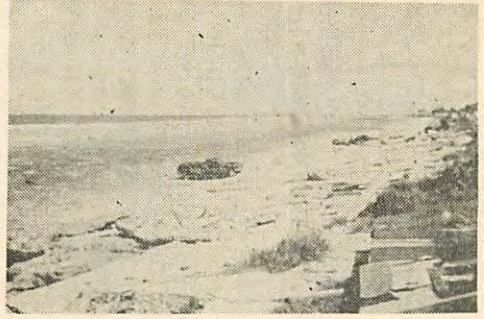


エビジエ島から 一〇柱
ウートロック島から 一柱
ウオツジエ島から 一柱

計十二体の遺骨をお迎へして帰
りました。何れも氏名は全く判りま
せん。十月十九日横浜帰還の日か
ら東京都世田谷区の野沢庵雲寺に
お預り願いました。十一月二十二
日厚生省に護送し、本会々長から
援護局長に引渡されました。この
御遺骨は同省霊安室に安置されま
すが、不日千鳥ヶ淵墓苑に納めら
れ、永遠の眠につかれます。
御参考り氏名不詳の御遺骨は前例
により分骨しないこととなっております。
お迎えした全量が千鳥ヶ淵墓
苑に納められます。

霊砂を迎えて—浅間台小学校講堂





エビゼ外海岸 — わがタンク今にのこる —

エビゼ島の思出

佐 竹 エ ス

エビゼ島はクエゼリン島の北隣で海岸からクエゼリン島の白い丸いドームやミサイル基地と云われる小高い丘もよく見えます。この丘の近くに日本人墓地があります。八月十二日午前九時四十分マジユロ港を出航一路エビゼ島へ向きました。十三日午前八時頃からマジユロから乗船のラリックラターダ号は四百トンの小さな船でレール人もありませんが、マインシャル人の船長さんです。小さい水道を通りクエゼリン島を右に見ながら十一時エビゼ島の棧橋に横付になりました。戦争中九五二空基地のあった島です。クエゼリン、ルオット島等はミサイル基地のため私どもは上陸出来ませんが、エビゼ島は簡単に調べる上陸出来ました。マジユロで知人になりました、ハワイの二世徳原さんにお会いし、

又昨年十月パンリックアイランド一号船長さんに御供物をお願いしてエゼリン日本人墓地の慰霊祭を行って頂きました折の参列者中田さん(環礁五号四頁参照)にお会いし、クエゼリン島の事や日本人墓地の様子を伺えると楽しみに上陸しました。エビゼ島は他の島の様に白い砂が少く海岸も黄茶色です。棧橋、電気、店もあるマインシャル中の文化都市でコンクリートブロック建築四戸建平家が連なり、椰子の木も小さく島全体小住宅街のようです。島の中央に高さ三十米の大きな海水タンクがあり目印の様です。水洗便所用になっていて聞ききました。棧橋のある内海に日本軍の作った水上機すべり跡今船着場に使っています。三時頃日本軍人の遺骨を発見保管してあります。……と伺い早速案内して頂きました。映画館や食堂を経営しているハンドルデリー氏宅です。家の工事中発掘されたので防空壕跡らしく十体程白骨化されています。見分はつきませんが、頑強な骨格、むし歯も義歯もなく若い勇士のおもかげが偲ばれ無念の涙で写真も忘れる処でした。木箱におさめマジユロで火葬し一緒に帰国致しました。又住宅建築現場で責任者のハワイの日系人松崎氏(広島県出身)に呼びとめられアメリカ軍の建築工事をやっています

が工事中時々遺骨を発見する事があり、此の間もクエゼリン島でコンクリートの通路に穴があき遺骨を発見したが軍に渡し、日本人墓地に丁寧に埋葬なさったと伺いました。松崎さんも中田さんの知人との事、翌十四日クエゼリンはアメリカ時間なので日曜日です。中田さんには是非お会いして当時の様子を伺い度いとお願ひしました。夕方徳原さんも船に見えられ、最終便で帰り十四日中田さんと一緒に見えられました。クエゼリンやルオット島の現在の様子を伺いました。日本人墓地はきれいに手入れされ、日本の草花が咲いている事……スライドや絵葉書も頂戴しました。ルオット島には日本軍のコンクリート建物があり墓地も清掃されているそうです。(写真・環礁三)でご覧のようにクエゼリンには墓碑は見られませんがルオットには墓碑があり、(碑文日本語訳です)

「ルオット島防禦のために生命を捧げた日本武装兵此所に眠る」日本人墓地がわかった時の嬉しさ、今ここで碑文を聞き昨日の敵は今日の友と云う感じです。現地に着する迄不安だった敗戦国日本としてどんな事を云われても致し方ないが、何としてでも慰霊碑を建て御冥福を祈り度い一心だけでしたが、何処へ行きましても戦死者は崇高な殉国者であると敬意を表してくださいました。又次の手紙を頂きました。

「拝啓 見ず知らずの人にこの様なことを書くのは大変失礼とは思いますがどうぞおゆるし下さい。昨日の朝夢で日本の軍人の方が自分をここから出してくれというのです。でもその力が私にはありません。せめてその人達のくよように思っせん香をこの島のどこかに立ててやりたいと思います。もしありあわせの線香がありましたらすみませんがミスタ徳原に二、三本お渡し下さいませ。」

上 塚

ミセス・サツキ・イングラム 御線香を渡し御供養して下さいの様御願ひしました。エビゼ島外海には戦車や日本の武器が淋しく赤さびの姿を見せています。今度も御供物を送り御供養して頂き度いと思ひますが如何でしょう。幸アメリカ貨物船二隻が度々横浜一クエゼリン、マジユロ間の定期便があります。昨年からは横浜入港の両船長さん始め多くの方と仲良しになりました。外見は黒くこわい様ですがとても親切で、お人好日本をおかれています。横浜へ入港時にお会いして現地の連絡を致すつもりです。クエゼリンに日系人が三十名位基地其他の仕事をしているそうです。九時から五時迄ゆっくり何うことが出来ました。御二人共エビゼ島は許可証が必要なのです。御帰りの船を見送り、拡大な燃える様な真紅の夕焼、南洋でも特に美しいと云われるマインシャルの夕焼を見、やがて頭上に南十字星の輝く迄棧橋に立ちつくし戦争

中の事等思い浮べました。十六日にはエビゼ島へヒーレー司令官一行が視察に見えられましたが、其時の様子は次回に記載させていただきます。

昭和四十三年二月六日

の慰霊祭御案内

一、日時・場所

昭和四十三年二月六日(火曜) 午前十一時・靖国神社

二、行事予定

昇殿参拝 定期総会(九段会館)

現地派遣員帰還報告 懇談

終了(午後三時三十分の予定)

三、その他

(1)受付は靖国神社参集所で午前十時からはじめます。なるべく早目におでかけ下さい。

(2)霊砂受領の御希望の方には、当日受付に準備してお渡しいたします。御希望者は予め、同封はがきで御申込下さい。

(3)遠方から御上京の方のために九段会館に五十名分宿泊の予約いたしました。御申込先着順に決めてまいりますので早目に御申込下さい。

御希望の方は同封のはがきに必要事項を御記入の上、宿泊料(一人二食付千二百円)とともに本部あて御送附下さい。

クエゼリン本島に建立の戦歿者忠魂慰靈碑について

現地に慰靈碑を建ててゐることは、本会創立当初からの願ひでありました...

当初からこの構想を都道府県へお届けすべきでしたが、承認されるかどうか判りませんが、御遺慮いたしておりましたところ、本会...

一方現地では、五月に司令官代理、八月にはヒーレー司令官と詳細の打合わせをすませてあります...

記の各県にお願ひいたしました。なるべく早い時期に碑を完成して会員の皆様へ御覧いただきたく急送したいと思ひます...

十一月末迄に碑文を頂けなかつた都道府県 青森、岸手、新潟、茨城、群馬、東京、神奈川、石川、愛知、三重、京都、大阪、兵庫、鳥取、島根、広島、徳島、高知、福岡、佐賀、熊本、大分、宮崎、

寄附者芳名

(一、二名)

今回も亦多数の会員から寄附・拠金を頂きましたことを御報告いたします。皆様の任意の温い浄財深く感謝いたします。役員一同...

寄附額 芳名(敬称略)

(パイレ数字は寄附回数)

篤志会員その他

- 一〇〇〇〇〇〇 東京共同募金会殿
一〇〇〇〇〇 船曳 定雄殿
五〇〇〇〇 山田 定義殿
三〇〇〇〇 ナウル島四高会殿
二〇〇〇〇 相川 清殿
二〇〇〇〇 十二 徳次殿
一〇〇〇〇 團野 弘之殿
一〇〇〇〇 伊藤 光夫殿
一〇〇〇〇 浮田 秀彦殿
一〇〇〇〇 大竹 久夫殿
一〇〇〇〇 後藤 集史殿
一〇〇〇〇 鷹本初太郎殿
一〇〇〇〇 成田喜代治殿
一〇〇〇〇 成宮芳三郎殿
一〇〇〇〇 松岡 実殿
一〇〇〇〇 三角 芳貞殿

青森県

- 五〇〇 花田 経宣(2)
三〇〇 阿部キツヨ(2)
二〇〇 小林宇多吉(1)
二〇〇 須藤ヨシノ(1)
二〇〇 沢谷重次郎(1)
二〇〇 藤田 ヨシ(1)
三〇〇 葛西スコエ(1)
二〇〇 工藤 ハナ(7)
二〇〇 福原 タケ(2)
二〇〇 山内 健一(2)
二〇〇 阿保佐五郎(2)
二〇〇 五十嵐きよ(1)
二〇〇 川村 みよ(1)
二〇〇 川島 みよ(1)
二〇〇 葛西 タマ(2)
二〇〇 佐藤 平助(1)
二〇〇 佐々木利吉(1)
二〇〇 長尾 いせ(1)
二〇〇 野宮 福一(2)
二〇〇 蛭田 タケ(2)
二〇〇 藤田 キク(1)
二〇〇 本堂 テフ(4)
二〇〇 松浦 源蔵(1)
二〇〇 松尾 倉松(1)
二〇〇 三浦 さよ(2)
二〇〇 三浦竹次郎(2)
二〇〇 中村 イト(1)
二〇〇 猪股サノヲ(1)
二〇〇 石沢 丑造(1)

岩手県

- 三〇〇 音喜多ミチヨ(1)
二〇〇 山田 未作(1)
二〇〇 成田 美津(2)
二〇〇 高谷 タカ(1)
二〇〇 小杉 リサ(4)
二〇〇 千田徳兵衛(7)
二〇〇 阿部幸太郎(1)
二〇〇 金野富次郎(1)
二〇〇 菊地 宣人(3)
二〇〇 熊谷鋼一郎(2)
二〇〇 佐々木十一(3)
二〇〇 佐々木利蔵(2)
二〇〇 佐藤源左エ門(2)
二〇〇 宮川 久吉(1)
二〇〇 湯村源左エ門(2)
二〇〇 吉田 ミヨ(2)
二〇〇 阿部 俊夫(3)
二〇〇 佐藤 しも(1)
二〇〇 菅原トクヨ(2)
二〇〇 中村 与平(1)
二〇〇 橋本 ミヨ(2)
二〇〇 竹内 フギ(2)
二〇〇 岩崎 もよ(1)
二〇〇 伊藤 進(1)
二〇〇 鎌田さつき(1)
二〇〇 小泉ふみの(1)
二〇〇 志村ふさの(1)
二〇〇 鈴木長太郎(4)
二〇〇 菅野 雄三(1)
二〇〇 千葉 幸(2)
二〇〇 松本 孝子(4)
二〇〇 宮原 康(2)
二〇〇 師岡 義秀(2)

山形県

- 二〇〇 秋保すぢ多(1)
二〇〇 海藤昇三郎(1)
二〇〇 大場美津子(4)
二〇〇 佐藤 志ん(4)
二〇〇 仲島 常治(1)
二〇〇 村田 勲(1)
二〇〇 森谷 勘利(2)
二〇〇 大泉 時子(1)
二〇〇 沖田 アキ(1)
二〇〇 遠田 政代(3)
二〇〇 遠田 利一(1)
二〇〇 荳司 聖市(3)
二〇〇 武田 喜市(3)
二〇〇 丹野アサ子(3)
二〇〇 丹野アサ子(3)
二〇〇 堀米与三郎(3)
二〇〇 丸山さく多(1)
二〇〇 渡辺 ミノ(3)
二〇〇 木口清太郎(1)
二〇〇 木村 よね(3)
二〇〇 佐藤 ちよ(3)
二〇〇 遠藤 覚栄(2)

秋田県

- 妻 渡部きやう子(1)
母 新田富美子(1)
母 小畑 宗蔵(1)
母 鈴木まつよ(1)
母 今野 藤栄(2)
母 小室舜司郎(1)
母 竹田 キエ(3)
母 小室舜司郎(2)
母 佐藤 新蔵(4)
母 佐藤 敏子(2)
母 佐々木三郎(5)
母 相馬 ツキ(1)
母 藤原 専松(1)
母 藤原 儀三郎(1)
母 山田 精一(1)
母 藤田 フユ(1)

- 北海道
五〇〇〇 万年亀太郎(1)
二〇〇〇 兄 池田 石蔵(1)
二〇〇〇 父 中島次郎左衛門(4)
一五〇〇 母 鈴木 とみ(2)
一〇〇〇 父 青木興三郎(1)
一〇〇〇 父 石川金五郎(6)
一〇〇〇 母 石原 ユキ(1)
一〇〇〇 母 金子 きよ(1)
一〇〇〇 母 斎藤健太郎(2)
一〇〇〇 父 長田末太郎(1)

- 父 長男 花田 経宣(2)
母 阿部キツヨ(2)
母 小林宇多吉(1)
母 須藤ヨシノ(1)
母 沢谷重次郎(1)
母 藤田 ヨシ(1)
母 葛西スコエ(1)
妻 工藤 ハナ(7)
母 福原 タケ(2)
母 山内 健一(2)
母 阿保佐五郎(2)
母 五十嵐きよ(1)
母 川村 みよ(1)
母 川島 みよ(1)
母 葛西 タマ(2)
母 佐藤 平助(1)
母 佐々木利吉(1)
母 長尾 いせ(1)
母 野宮 福一(2)
母 蛭田 タケ(2)
母 藤田 キク(1)
妻 本堂 テフ(4)
母 松浦 源蔵(1)
母 松尾 倉松(1)
母 三浦 さよ(2)
母 三浦竹次郎(2)
母 中村 イト(1)
母 猪股サノヲ(1)
母 石沢 丑造(1)

- 父 長男 音喜多ミチヨ(1)
母 山田 未作(1)
母 成田 美津(2)
母 高谷 タカ(1)
母 小杉 リサ(4)
母 千田徳兵衛(7)
母 阿部幸太郎(1)
母 金野富次郎(1)
母 菊地 宣人(3)
母 熊谷鋼一郎(2)
母 佐々木十一(3)
母 佐々木利蔵(2)
母 佐藤源左エ門(2)
母 宮川 久吉(1)
母 湯村源左エ門(2)
母 吉田 ミヨ(2)
母 阿部 俊夫(3)
母 佐藤 しも(1)
母 菅原トクヨ(2)
母 中村 与平(1)
母 橋本 ミヨ(2)
母 竹内 フギ(2)
母 岩崎 もよ(1)
母 伊藤 進(1)
母 鎌田さつき(1)
母 小泉ふみの(1)
母 志村ふさの(1)
母 鈴木長太郎(4)
母 菅野 雄三(1)
母 千葉 幸(2)
母 松本 孝子(4)
母 宮原 康(2)
母 師岡 義秀(2)

- 父 遠藤 覚栄(2)
妻 佐藤 ちよ(3)
母 木村 よね(3)
母 木口清太郎(1)
母 渡辺 ミノ(3)
妻 丸山さく多(1)
父 堀米与三郎(3)
妻 丹野アサ子(3)
妻 丹野アサ子(3)
妻 丹野アサ子(3)
妻 丹野アサ子(3)
妻 堀米与三郎(3)
妻 丸山さく多(1)
妻 渡辺 ミノ(3)
妻 木口清太郎(1)
妻 木村 よね(3)
妻 佐藤 ちよ(3)
父 遠藤 覚栄(2)

◇**廣島** 一〇〇〇〇〇 母 植田 操 (8)
 三〇〇〇〇 妻 村上 愛子 (3)
 二〇〇〇〇 妻 原シズエ (1)
 一〇〇〇〇 父 浜本 新一 (2)
 〇〇〇〇 妻 石本 新一 (2)
 〇〇〇〇 妻 小西マツヨ (2)
 〇〇〇〇 妻 高山トミコ (3)
 〇〇〇〇 妻 妻多葉井八重子 (3)

◇**岡山** 二〇〇〇〇 妻 大月 文子 (2)
 一〇〇〇〇 妻 本田 晴恵 (5)
 〇〇〇〇 母 掛屋 常代 (3)
 〇〇〇〇 妻 津田 巖 (1)
 〇〇〇〇 妻 中島 清子 (1)
 〇〇〇〇 父 畦崎伊左エ門 (1)

◇**島根** 五〇〇〇 妹 杉川 及江 (4)
 一五〇〇 父 園山カズコ (5)
 一〇〇〇 父 田中 文雄 (1)
 一〇〇〇 父 後藤権太郎 (1)
 一〇〇〇 母 金崎イマヨ (2)
 〇〇〇〇 兄 近重 信人 (1)
 〇〇〇〇 妻 松下 綾 (2)
 〇〇〇〇 妻 井田沼ウメ (1)
 〇〇〇〇 妻 石飛アサコ (1)
 〇〇〇〇 妻 中浜ヒメコ (2)

◇**鳥取** 一〇〇〇〇 父 井上 延次 (1)
 〇〇〇〇 父 遠藤 淳 (1)
 〇〇〇〇 父 田中はつの (4)
 〇〇〇〇 父 中橋 正義 (2)
 〇〇〇〇 父 山形 雅俊 (2)
 〇〇〇〇 父 長男 杉川 及江 (4)

◇**和歌山** 一〇〇〇〇 妻 辻田ユキエ (1)
 二〇〇〇〇 妻 野上庄太郎 (1)
 一〇〇〇〇 父 稗田新三郎 (1)
 〇〇〇〇 父 山中 フジ (2)

◇**三** 三〇〇〇 母 森田 種雄 (1)
 一〇〇〇〇 父 谷口 スエ (6)

◇**香川** 五〇〇〇 父 宮兼佐次 (2)
 〇〇〇〇 父 長尾 米吉 (3)
 〇〇〇〇 父 矢部 清 (1)
 〇〇〇〇 父 山口シゲユ (2)
 〇〇〇〇 父 船部 林七 (1)
 〇〇〇〇 父 服部 セン (1)
 〇〇〇〇 父 豊田 民蔵 (4)
 〇〇〇〇 父 田中 善恵 (1)
 〇〇〇〇 父 森近トク子 (1)
 〇〇〇〇 父 片山勇太郎 (1)
 〇〇〇〇 父 高橋与三郎 (1)
 〇〇〇〇 父 美馬 齐 (1)
 〇〇〇〇 父 実平 栄助 (2)
 〇〇〇〇 父 安芸 正夫 (1)
 〇〇〇〇 父 大寺 綾子 (5)

◇**徳島** 二〇〇〇〇 妻 大寺 綾子 (5)
 一〇〇〇〇 母 平川アサヨ (3)
 〇〇〇〇 母 野村 ヨネ (6)
 〇〇〇〇 母 橋高サヲヨ (2)
 〇〇〇〇 妻 永見つるの (2)
 〇〇〇〇 妻 矢吹 富 (3)
 〇〇〇〇 妻 道源 ヒサ (2)
 〇〇〇〇 妻 東 カマ (2)
 〇〇〇〇 妻 長川 恵 (1)
 〇〇〇〇 妻 児玉 富子 (2)
 〇〇〇〇 妻 内富みつよ (5)
 〇〇〇〇 妻 藤井 シズ (1)
 〇〇〇〇 妻 原田 トミ (4)
 〇〇〇〇 妻 嶋田 チヨ (1)
 〇〇〇〇 妻 隣 フジノ (1)

◇**山口** 五〇〇〇 父 三沢浅次郎 (1)
 〇〇〇〇 父 竹中マツノ (1)
 〇〇〇〇 父 岡本 宏 (3)
 〇〇〇〇 父 久行 勝 (5)
 〇〇〇〇 父 林 トメ (1)
 〇〇〇〇 父 中山 道源 (1)
 〇〇〇〇 父 寺田ヤチヨ (2)
 〇〇〇〇 父 茶山ヨシノ (1)
 〇〇〇〇 父 田口マサコ (1)

◇**愛媛** 一〇〇〇〇 長男 秋山正清 (7)
 三〇〇〇〇 次男 石川正興 (3)
 二〇〇〇〇 母 奥田 マス (4)
 一〇〇〇〇 母 田中ヤスノ (3)
 〇〇〇〇 母 富家 ツ子 (4)
 〇〇〇〇 母 石田 藤美 (4)
 〇〇〇〇 妻 石原トヨ子 (2)
 〇〇〇〇 妻 大西 武蔵 (1)
 〇〇〇〇 妻 大西 コギス (2)
 〇〇〇〇 妻 大西 ムメノ (4)
 〇〇〇〇 妻 香川ムメノ (4)
 〇〇〇〇 妻 上村忠太郎 (2)
 〇〇〇〇 妻 黒川チヨノ (2)
 〇〇〇〇 妻 高階ヨシエ (2)
 〇〇〇〇 妻 富田トシ子 (3)
 〇〇〇〇 妻 久森 俊一 (2)
 〇〇〇〇 妻 松原ユキエ (3)
 〇〇〇〇 妻 増井ヨシエ (4)
 〇〇〇〇 妻 横田観太郎 (2)
 〇〇〇〇 妻 岩田 リク (1)
 〇〇〇〇 妻 阪上 重次 (1)
 〇〇〇〇 妻 阪本フミ子 (1)
 〇〇〇〇 妻 瀬戸伊之助 (1)
 〇〇〇〇 妻 大西 タケ (1)
 〇〇〇〇 妻 伊藤 梅子 (6)
 〇〇〇〇 妻 長岡 米吉 (3)
 〇〇〇〇 妻 井上シナヲ (1)
 〇〇〇〇 妻 井原森太郎 (4)
 〇〇〇〇 妻 今村 高義 (3)
 〇〇〇〇 妻 国貞チズミ (1)
 〇〇〇〇 妻 久保田泰子 (4)
 〇〇〇〇 妻 小西アキヨ (4)
 〇〇〇〇 妻 宅貝 クマ (3)
 〇〇〇〇 妻 中村 嘉蔵 (1)
 〇〇〇〇 妻 西 サクノ (4)
 〇〇〇〇 妻 浜田 義和 (2)
 〇〇〇〇 妻 浜田ハツ子 (2)
 〇〇〇〇 妻 馬場みね子 (2)
 〇〇〇〇 妻 村上みち江 (2)
 〇〇〇〇 妻 山岡シゲミ (3)

◇**福岡** 一〇〇〇〇 父 鐘ヶ江 弘 (1)
 〇〇〇〇 父 西田ヤエノ (2)
 〇〇〇〇 父 安田 寅吉 (2)
 〇〇〇〇 父 小林オカツ (1)
 〇〇〇〇 父 吉松 貞子 (1)

◇**高知** 二〇〇〇〇 父 山岡瀧太郎 (1)
 一〇〇〇〇 父 南場 福吉 (1)
 〇〇〇〇 父 西岡 虎次 (2)
 〇〇〇〇 父 五百蔵国尋 (2)
 〇〇〇〇 父 岡林千代喜 (1)
 〇〇〇〇 父 岡村 善照 (2)
 〇〇〇〇 父 黒岩 茂通 (1)
 〇〇〇〇 父 田中百合子 (3)
 〇〇〇〇 父 竹内 熊治 (1)
 〇〇〇〇 父 竹内 由喜衛 (4)
 〇〇〇〇 父 竹本 友恵 (2)
 〇〇〇〇 父 千頭 政衛 (3)
 〇〇〇〇 父 中沢 春木 (4)
 〇〇〇〇 父 中越キミエ (3)
 〇〇〇〇 父 藤原 晴敏 (2)
 〇〇〇〇 父 藤戸 稔 (1)
 〇〇〇〇 父 松木常次郎 (1)
 〇〇〇〇 父 森田亀太郎 (1)
 〇〇〇〇 父 安岡 景祐 (1)
 〇〇〇〇 父 山岡 豊 (1)
 〇〇〇〇 父 横山 広磨 (1)
 〇〇〇〇 父 大川 呆勇 (2)
 〇〇〇〇 父 河野 里美 (3)
 〇〇〇〇 父 入福 豊 (3)
 〇〇〇〇 父 桜木 高衛 (2)
 〇〇〇〇 父 鐘ヶ江 弘 (1)

◇**高知(戦死者)** 二〇〇〇〇 父 山岡瀧太郎 (1)
 一〇〇〇〇 父 南場 福吉 (1)
 〇〇〇〇 父 西岡 虎次 (2)
 〇〇〇〇 父 五百蔵国尋 (2)
 〇〇〇〇 父 岡林千代喜 (1)
 〇〇〇〇 父 岡村 善照 (2)
 〇〇〇〇 父 黒岩 茂通 (1)
 〇〇〇〇 父 田中百合子 (3)
 〇〇〇〇 父 竹内 熊治 (1)
 〇〇〇〇 父 竹内 由喜衛 (4)
 〇〇〇〇 父 竹本 友恵 (2)
 〇〇〇〇 父 千頭 政衛 (3)
 〇〇〇〇 父 中沢 春木 (4)
 〇〇〇〇 父 中越キミエ (3)
 〇〇〇〇 父 藤原 晴敏 (2)
 〇〇〇〇 父 藤戸 稔 (1)
 〇〇〇〇 父 松木常次郎 (1)
 〇〇〇〇 父 森田亀太郎 (1)
 〇〇〇〇 父 安岡 景祐 (1)
 〇〇〇〇 父 山岡 豊 (1)
 〇〇〇〇 父 横山 広磨 (1)
 〇〇〇〇 父 大川 呆勇 (2)
 〇〇〇〇 父 河野 里美 (3)
 〇〇〇〇 父 入福 豊 (3)
 〇〇〇〇 父 桜木 高衛 (2)
 〇〇〇〇 父 鐘ヶ江 弘 (1)

五〇〇〇 妻 秦 サカエ (4)
 〇〇〇〇 父 安岡藤五郎 (4)
 〇〇〇〇 妻 山口 ふみ (3)
 〇〇〇〇 妻 森 キヨ子 (3)
 〇〇〇〇 妻 峯 シマ (3)
 〇〇〇〇 母 水城 又利 (2)
 〇〇〇〇 父 本田 ヨシ (2)
 〇〇〇〇 父 平山 輝夫 (3)
 〇〇〇〇 妻 野見山シゲノ (3)
 〇〇〇〇 父 野田藤太郎 (1)
 〇〇〇〇 母 橋崎 やす (2)
 〇〇〇〇 母 田上ヨツノ (3)
 〇〇〇〇 母 管 ヨリ (1)
 〇〇〇〇 妻 白水 シカ (1)
 〇〇〇〇 妻 柴田ヤエコ (3)
 〇〇〇〇 父 定本 歳雄 (2)
 〇〇〇〇 父 坂梨 進 (4)
 〇〇〇〇 父 小柳 顕義 (2)
 〇〇〇〇 妻 倉員ミカノ (5)
 〇〇〇〇 妻 北尾ヒデ子 (2)
 〇〇〇〇 妻 川浪マサエ (1)
 〇〇〇〇 母 川神 キチ (2)
 〇〇〇〇 母 金丸 ハル (2)
 〇〇〇〇 母 大坪チトエ (2)
 〇〇〇〇 父 小野 林 (1)
 〇〇〇〇 母 家迫 ソヲ (4)
 〇〇〇〇 母 今村キリヨ (3)
 〇〇〇〇 父 安島 義夫 (3)
 〇〇〇〇 母 村上キミヨ (4)
 〇〇〇〇 母 堀内 キク (1)
 〇〇〇〇 妻 坂本ヤスエ (4)
 〇〇〇〇 母 徳王 好子 (4)
 〇〇〇〇 母 高松 久一 (1)
 〇〇〇〇 父 田中儀七郎 (1)
 〇〇〇〇 父 清水 澄義 (2)
 〇〇〇〇 父 柴戸 徳三郎 (2)
 〇〇〇〇 妻 草場 マキ (2)
 〇〇〇〇 妻 太田 菊江 (2)
 〇〇〇〇 妻 三坂 茂 (1)
 〇〇〇〇 妻 深川 英由 (6)
 〇〇〇〇 妻 西原 康雄 (4)

◇佐賀県

五〇〇〇〇

二〇〇〇〇
三〇〇〇〇

一〇〇〇〇

五〇〇〇〇
長崎県

六〇〇〇〇
五〇〇〇〇

三〇〇〇〇
二〇〇〇〇

一〇〇〇〇
一五〇〇〇

兄	酒井	平六(2)	父	原口	ミヤ(2)	父	藤野	勘助(1)	父	野上	連乗(2)	妻	宮崎	ツヨ(3)	妻	石田	トシ(2)	母	井上	龍三(1)	母	金子	セノ(2)	母	木須	イワ(2)	母	北川	元雄(2)	父	久保	久助(2)	父	野田	沢子(2)	姉	成富	フサエ(1)	姉	古川	達見(1)	兄	梶原	スエ(1)	母	中山	時野(3)	妻	松尾	フサ(5)	妻	神田	ユキ子(6)	妻	松崎	政重(2)	妻	前田	フサ(3)	妻	荒木	チズ(1)	妻	安達	ミツヨ(3)	妻	斎藤	ミ子(3)	父	佐藤	市松(3)	父	初夫	トヨ(3)	父	徳市	トヨ(3)	父	原田	トヨ(3)	父	濱田	トヨ(3)	妻	広瀬	カツ(4)	父	入江	亀助(1)	母	大石	クマ(2)	母	太田	熊市(3)	妻	久米	シエ(3)	妻	山口	クニ(4)	母	田村	サヨ子(2)	母	馬場	菊衛(1)	母	原田	佩男(1)	妻	久村	キマ(2)	妻	平田	利子(9)	妻	福井	ヨシ子(1)
---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------

◇熊本県

五〇〇〇〇

二〇〇〇〇

一〇〇〇〇

母	松	ジュ(3)	母	木下	エキ(1)	父	山田	重右衛門(3)	妻	鹿田	ミサカ(5)	母	松林	ヲセ(1)	母	園	ハマ(1)	母	野小生	ハルキ(1)	父	荒木	一蔵(2)	弟	隈部	中(1)	妻	寺本	ミドリ(1)	母	中村	エカ(4)	母	山部	貢(2)	母	青木	キミ(2)	母	荒木	ジュカ(5)	兄	東	光(2)	弟	安永	嘉彰(3)	弟	井上	チキ(1)	妻	今村	コメ(2)	妻	一村	ヨシメ(4)	妻	上村	ミツエ(1)	妻	江口	ふじえ(2)	妻	岡	辰次郎(2)	妻	緒方	春子(2)	父	甲斐	マルエ(2)	父	河野	金作(3)	父	武田	タカ(3)	妻	高本	サシキ(1)	父	樋田	トリ(2)	父	寺本	勘太郎(1)	母	中村	ハル(1)	母	中村	ハル(1)	妻	永戸	ハツヨ(1)	妻	福田	シゲ(2)	父	福部	乙松(2)	父	松野	文治(2)	父	前田	ハル(1)	母	山中	ヤエ子(3)	妻	森下	マル(1)	母	吉田	ワイ(2)
---	---	-------	---	----	-------	---	----	---------	---	----	--------	---	----	-------	---	---	-------	---	-----	--------	---	----	-------	---	----	------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	------	---	----	-------	---	----	--------	---	---	------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	--------	---	----	--------	---	---	--------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------

◇大分県

三〇〇〇〇

二〇〇〇〇

一〇〇〇〇

五〇〇〇〇
宮崎県

一八〇〇〇

一五〇〇〇

一〇〇〇〇

母	吉武	清(1)	母	鹿島	サク(2)	母	西村	いつも(1)	父	橋本	清吉(2)	妻	浜辺	ウメ(3)	母	深川	はま(1)	母	矢沢	ギノ(2)	母	吉村	ツギ(2)	母	野田	雅子(6)	妻	藤野	芳子(1)	妻	松崎	スミヨ(1)	父	安部	日出生(2)	父	池田	友則(2)	父	宇野	照二(1)	父	上田	政憲(1)	兄	衛藤	金喜(1)	兄	鎌田	ハツエ(3)	父	勝見	君義(3)	母	木村	ハナ(4)	母	田中	為市(2)	母	中村	エワヲ(1)	父	深田	秀人(3)	父	湯朝	アキノ(1)	父	横川	米造(1)	父	古寺	スエキ(2)	父	高橋	実(2)	母	戸田	フヂヨ(1)	妻	白浜	クラ(1)	妻	甲斐	武市(3)	父	河村	美津子(5)	父	河村	美津子(6)	父	荒川	熊助(1)	妻	池田	トミ(2)	妻	一水	数太郎(2)	父	岩切	利平(1)	父	児玉	チン(4)	兄	佐保	明(1)	父	杉山	ヨシ(3)	父	外山	薫逸(3)
---	----	------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	------	---	----	-------	---	----	-------

◇鹿児島県

一〇〇〇〇〇

五〇〇〇〇

二〇〇〇〇

父	田野	寅太郎	母	土工	あぐり(6)	父	中武	一蔵(1)	父	西	敬二(4)	母	野別	ヒナ(2)	母	荒田	キクノ(1)	父	榎屋	乙助(1)	父	塩月	チサ(1)	妻	土工	サカ(6)	母	重留	ウメ(3)	母	和田	芳子(3)	母	上田	キヨ(2)	母	上村	トヨツル(4)	父	遠藤	栄吉(1)	父	柳	嘉男(3)	妻	川畑	ツルエ(3)	妻	高崎	アイ(2)	妻	仲	房(1)	妻	法元	クニ(3)	妻	山口	エイ(1)	妻	南	佐四郎(1)	妻	井上	佐次郎(1)	妻	宇部	カズエ(3)	妻	柳	太七(1)	妻	島田	ヨシエ(1)	兄	曾山	満夫(4)	父	田口	清助(2)	父	永吉	嘉之助(1)	父	西方	暎太郎(3)	母	西之園	ソメ(1)	妻	東	キク(3)	妻	吉永	ハルミ(3)	母	上村	セイ(3)	妻	神川	カツ(4)	母	木下	栄(3)	弟	小牧	ヒデ(1)	弟	中原	義臣(3)	祖母	福岡	イセヅル(1)
---	----	-----	---	----	--------	---	----	-------	---	---	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	---------	---	----	-------	---	---	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	---	------	---	----	-------	---	----	-------	---	---	--------	---	----	--------	---	----	--------	---	---	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	--------	---	-----	-------	---	---	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	------	---	----	-------	---	----	-------	----	----	---------

◇沖縄県

三〇〇〇〇

二〇〇〇〇

六〇〇〇〇

五〇〇〇〇

妻	福田	フミ(3)	妻	松元	ヨシ(1)	母	松野	下イエ(3)	姉	箕輪	なし子(1)	姉	益田	コミ(2)	長男	謝花	朝章(2)	妻	知念	コウシ(1)	妻	仲座	カナ(4)	妻	浦崎	ナエ(1)	妻	金城	カミ(4)	妻	兼城	マツ(1)	妻	我如	古ツル(1)	妻	国場	カマ(1)	妻	座波	ツル(1)	妻	平良	鍋吉(4)	妻	栗森	キタ(1)	妻	大宜	味ナベ(1)	妻	新垣	ハル(1)	妻	新座	ナル(1)	妻	稱保	ウメ(1)	妻	川平	タケ(2)	妻	仲當	真ウトラ(1)	妻	伊礼	ノブ(1)	妻	岸本	ウト(1)	妻	国吉	春子(1)
---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	--------	---	----	-------	----	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	--------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	---------	---	----	-------	---	----	-------	---	----	-------

◇雑誌紹介◇
本会現地派遣員の撮影による、ミレ島・ギルバート諸島の写真が月刊雑誌「丸」(発行所潮書房)の正月号に、又ヤルト島の写真は同誌の二月号のそれぞれ巻頭のグラビア版で掲載されておりま

事務局だより

○ 地方での

「現地報告会」に就いて

現地派遣員の帰還報告は十月十九日東京都内浅間台小学校で行い、会員、来賓計三百人の方に対し、御報告いたしました。全国的に派遣して御報告申し上げさせたいのでありますが時間と経費の都合が有つて今のところ四十二年二月六日の東京における慰霊祭当日と期日未定でございますが京都において行います二回だけ考えております。若し県或は数県の御企画で帰還報告御希望のところは派遣員を派遣いたしますので本部宛御申越下さい。誠に申しかねますが往復の運賃だけ御負担下さいませう御願ひいたします。御希望の日時、場所を御示し願ひます。所要時間は概ね二時間半乃至三時間、スライドと8ミリを併用いたしますので暗幕のありますところならば幸せてございます。

○ 「鎌田」さんの遺品が米國アリゾナ州に

朝日新聞十一月十八日の朝刊、青鉛筆欄に、同社に寄せられた米國アリゾナ州のツーソンという町に住むメルバさんからの手紙がのつていた。手紙の中に「昭和十九年二月二日、南太平洋クエゼリン島で戦死した若い日本兵の遺品があります。ぜひゆかりの方に届けたら」と書いてあるそである。早速同新聞社に問い合わせたところ、詳しい宛先が判つたので、本部か

らメルバさんに手紙を出した。その遺品の中に「鎌田」という押印があるとのことだが、クエゼリンの戦死者の中に、同姓の人が十名もあり、もう少し詳しい資料がないと決められないので、至急詳報するよう依頼した。

○ テニアン島での国辱ばなし

マーシャル諸島からの帰途、一日テニアン島の戦跡視察をいたしました。その有力な視察長が「日本人には遺骨の発掘は許しませんが日本人は掘つた骨をもち帰つて、高く売つていふというではありませんか」と。何という恥辱でしょう。その後同地に収骨にいった某大学生は拒否されたと聞きます。純真な学生が不憐れでなりません。誤解の原因が何辺にあるか判りませんが、国はこれを究明し、国辱にもひとしい誤解を解くべきではないでしようか。

○ 報告会に出席された

一生還者の方から 前略マーシャル方面遺族会に出席いたしました。役員の皆様方の心からなるご接待に心温る思いをいたし深く感謝申し上げます。

ご報告をお聞きスライドを拝見するにつけ、二十数年前が、昨日のように憶い出され、我を忘れ、時代の流れを忘れて、暗然と、黙々と終始哀しく深い感銘にむせびました。

私はヤルト島から生還したのですが、ご遺族の真剣な熱心な美しい愛に満ちた態度とお気持を眼前にしたとき又「遊行かばを合唱したとき、思はず目がうるみ、声のつまる感激をいたし、この感激

を広く多くのの人々に伝え残して、戦争の絶対にならない日本の将来に不安のない平和を確立することに努力したいと存じます。今後共よろしくお願ひ申し上げます。
(浜松市 足立 潔 殿より)

○ 戦記について

このことについては環礁7号の5頁に延期について、御説明申し上げます。現地を見るにつけ、ますます戦記の必要を感じました。米國のギルバート、マーシャル、カロリン、マリアナ、硫黄島、沖繩を結ぶ攻略作戦の、最初の犠牲となつただけにこの戦記は大切な意味をもちます。現地見聞、戦跡視察の結果資料もまた増えました。既に代価前納の方には特に申わけありませんが事情お含みの上、お待ち下さいますようお願い申し上げます。(浮田記)

○ お詫び

環礁7号はかねて御好評いただいております「クエゼリン環礁警備日誌」も「遺作」、「会員だより」などお楽しみいただいております。記事は全部休載いたしました。誠に申訳なく深くお詫び申し上げます。

十六頁だての本誌にはあまりにも記載材料が多いという、嬉しい悲鳴でございます。昭和四十二年定期総会に事務局から提案予定の会費制が可決されますと寄附者芳名欄も従来程の紙面を要しないことになると思ひます。従つて今回割愛の記事も充分のせられることになるのではないと思ひます。

新春を寿ぎ

謹んで新年の

お慶びを申し上げます

昭和四十三年元旦

◎ 本会役員及び篤志会員

名誉会長	朝香 鳩彦	監事	橋口 昭利
顧問	石橋 湛山	監事	末広 正男
相談役	朝香 孚彦	篤志会員	有馬 成甫
副会長	林 茂清	篤志会員	板垣 徹
副会長	加藤善佐次郎	篤志会員	大野 克一
副会長	村上 義一	篤志会員	瀬沼 光久
常任幹事	浮田 宗家	篤志会員	土屋 太郎
常任幹事	佐藤 信三	篤志会員	中島 昌彦
幹事	秋山 正清	篤志会員	中田 虎一
幹事	井上 賀雄	篤志会員	成田喜代治
幹事	宇田川ヒサ	篤志会員	長谷川栄次
幹事	木村 久子	篤志会員	長谷川 敏
幹事	国松ふみ江	篤志会員	林 幸市
幹事	小泉 文江	篤志会員	松平 永芳
幹事	佐竹 エス	篤志会員	村岡 達志
幹事	萩原金次郎	篤志会員	安藤 小夜
幹事	昼間 栄平	篤志会員	白鳥 梯子
幹事	山浦 信子	篤志会員	本木 光江
監事	岡野 正文		

○ 編集を了えて

一地域の小さな遺族会乍ら機関誌は号を重ね7号となりました。この紙質でも十六頁になりました。二十五グラム一ぱい。少しでも超過すると五円増となります。会員の皆様と気楽にお連絡できる事務局だよりは欲しいし、寄附者芳名は何を措いてもお載せたい。又今回別刷とした四頁は本会の統否についての大事な局の願であります。このため帰還報告は僅かにな

つてしまいました。取材した資料は沢山あります。写真もあります。これらはいづれ、次号以降、逐次掲載し御報告いたすと同時に英霊をお慰めするよすがにしたいと思ひます。

本部

東京都中央区日本橋 東筋町二丁目十一番地
泉商事株式会社内
マーシャル方面遺族会
電話三六一六四番

環礁第七号を以て

お訣れとなるかもしれない方々のために

かつて寄附者芳名に掲載の方には誠に申わけありません。
今後の運営方針を決めるため全会員に御尋ねいたしたいと
存じお送りいたしましたので御寛容のほど幾重にもお願い
申します。

御参考

この四頁はどなたも是非御一読の上必ず同封のはがきで
御返事を下さいますよう御願いたします。

御連絡

常任幹事 浮田信家

この刷物の、はじめの二、三行だけお読みになり、どうも寄附金集め臭いからお捨てにならず、どうぞ終りまでお読み下さるようお願いいたします。さもないと今後は機関誌「環礁」はもとより、本会からのすべての御連絡は取止め、事実上表紙のとおり本号を以て、お訣れとなりますので繰り返し申した次第です。

本会は発会以来四年を経ましたが、会長、名誉会長、顧問、副会長の御指導により、他に例を見ない程、充実してきました。

以下自信をもって申し上げますので、皆様方からも、本会をよりよく育てるための積極的の御意見を、同封はがきにお認めの上、至急お知らせ下さいますようお願いいたします。

本会は、その発足の時から、本会の大きな目的の一つである「会員の相互扶助および親睦をはかります」という大きな看板を真面目に実行し、まづ第一に生活の御不自由の方にも英霊を偲び、その功績を称え、お慰めするよすがとなるよう、会費は集めず、遺族の全員に機関誌「環礁」を無料でお送りしてまいりました。(今までは御申込もないのに本会から勝手にお送りしました

ので、その分の費用を下さいなどとは申しません)

どなたにもお判りの通り、このためには、実は莫大の経費をかけたのでございます。このため会長はじめ幹部の方が政府その他に補助金交付を申請して下さいましたが、本会に交付すれば、他の遺族会にも交付しなければならぬといつて遂に目的を達せませんでした。やむを得ず会員の寄附によって運営することになりました。機関誌「環礁」一号から毎号「寄附者芳名」として記載された約三千四百名の方々の美しい浄財の御寄附によって運営がつづけられたのでございます。

はじめはクエゼリン方面戦歿者遺族会として出発したのが今日のように広い地域にひろがるまで、その地域の戦歿者氏名の調査や、その遺族の氏名現住所調査には御想像以上の困難があり事務局職員の涙ぐましい蔭の力によるのでございます。

戦歿者遺族中一割に及ばない方々の拠金によって三万五千余の方にお頒けした苦しい運営はどなたにもお察しいただけるとおもいます。

最初三万五千の方に発送しましたが、住所変更や遺族の絶えた等のため郵便局で配達できず、会に戻って来たものには、その後の環礁の発送は中止しました。それでも今回の七号は一万八千の遺族に発送したのでございます。又この三千四百人の浄財によってとうとう役員二名を現地に派遣し、広大な地域に散在する戦闘の行われた全島を徹底的に調査し、収骨し、墓標を建て、慰霊祭

を行うという大事業を計画し、これを断行して完遂しました。はじめに大きな宣伝をし、募金し、餌を示して発足したが、実現できず弱い遺族から金品をまき上げるといふ实例の多い中に、本会は全く之と反対の経過をたどりました。最初はクエゼリン島の遺族だけで小さな、しかも堅固な基礎を固めた結果、二年目にはルオット島、ブラウン島の参加希望があつて之を容れ、三年目にはウオッセ島はじめ、残るマーシャル諸島全域の遺族が参加され、四年目にはギルバート諸島、オーシャン島、ナウル島全域の遺族の加入となり、次いで本会からの代表が、政府に先んじ、戦後始めてこの広大な戦域を叩問する等、年毎の発展、充實を経て今日に至りました。更に昭和四十四年十月十九日から行われる私等とは最も縁深い、靖国神社創立百年記念大祭には多数ある遺族会の中から選ばれて本会会長が奉祝奉賛会の理事に委嘱されるといふところまで至つたのであります。

以上のように誠に地味ではありましたが、着々と基礎を固めて、遂に本会の大きな目的が一段落つきました。しかし何時までも三千四百人の方々におすがりして全員の方に御連絡をとることは許されません。いかに慰霊のためとはいへ、一部の方々の負担において、全員の方に慰霊の喜びをお頒ちする責任もなければ義務もないからでございます。

さて環礁をはじめ受領した方に見ますと、

一、この刷物は自分と何の関係があるかと疑われると思ひます。

何故なら戦死公報はただ南太平洋で名譽の戦死を遂げたということだけしか知らされておりませんでした。本会はそのすつかり調べ御関係のあることを確めておしらせしたのですがおわかりにならず、従つて寄附どころではないということ。

二、物価高の今時こんな上質紙の刷物をただよこすのは、いづれ遺族の切実な希望を利用する準備であらう。その中お金や品物をねだるのではないかといふ御心配のあること。

三、国会議員の立候補者が一票ほしさに遺族に期待をかけ、お上手に立廻る一味ではないかといふ御懸念のあるため。

四、資金のスポンサーでもあるのか、無料で送つてはくれたが、そのうち新興宗教にでもズルズル引込まれるのではないか。

などが原因で、寄附する気持になれないのだと思ひます。事実残念ですが今の日本にはこのような実例が多いのです。このためつゝ、触らぬ神に祟りなしとの御用心から模様ながめであつたといふのが真相ではないかと思ひます。本会は過去の経過（環礁一号から六号）からお判りいただける通り、会則以外の目的は全然なく、ただ慰霊一途に徹して独歩しているのでございます。

本年二月六日の定期総会では次の事項を充分に御審議いただきたいと思ひます。

一、会則第十条中会費年額決定の件

提 案 理 由

会則第十条に示す会費は従来集めず、寄附金にのみ依存した。

三万五千の全会員に対する周知徹底も終り、現地調査、収骨、慰霊という大きな目的も終了した。今後は年度計画も樹立し、恒久計画的運営が可能となるので、本年度から会費制とするのが適当と考える。随意随時の寄附はこれを受け、芳名は環礁に掲載し謝意を表する。

二、会則第五条「活動」に伴う事業の対象は、会費納入の会員（正会員と仮称する）及び篤志会員に限定する。

提 案 理 由

従来は相互扶助の意味もあって全員に環礁を送り、靈砂をお渡し、戦地での郵便貯金の調査、全国戦歿者追悼式への御招待の幹旋、例年の靖国神社昇殿参拝、クエゼリン慰霊碑への靈壘の奉納など行ったが、財政上不可能なので、これらは正会員、篤志会員に限定したい。

などでありませす。今後は本会の実態を御承知いただき御賛同下さる方のみをもって末永く同じ地域での戦死者の遺族としてその英霊をお慰めするのが良いのではないかと思われませす。

何回もくだいようではありませすが、来る二月六日の総会は、本会の今後のあり方が方向づけられる重要な総会でありませす。このため当日御欠席の会員の方々の御意見も総会の決議に反映させていただきますたいと思ひませす。本会の存続に賛成の方も、或は解散に賛成の方も、同封の「はがき」に所要事項御記入の上是非本部あてお送り下さいますよう重ねて御願申し上げます。

会 計 中 間 報 告

常任幹事 佐 藤 宗 丕

今年は今地派遣という、本会始つて以来最大の事業をしたため、繰越金が大巾に減りました。現地派遣費は三一〇万円を見込みましたが、二八五万円ですみました。之は浮田、佐竹両幹事が不自由を忍んで節約して下さったため感謝の外はありません。本年度に予定していた現地慰霊碑建設は、都道府県知事の碑文が集まらないため、来年に繰延べられました。従つてこの分の支払は来年早々になります。

本年五月、林会長の呼びかけに依じて、多数の会員から沢山の浄財をお寄せ頂きありがとうございます。本年度の寄附金を五八二万円と見込んでおりましたが、目下の所、三五四万円、目標に大きく不足しているのは、大口寄附（助成）を見込んだ各都道府県が夫々の御事情により遅れているためであります。

会 計 現 況 報 告 (自 42. 1. 1 至 42. 11. 30)

1	収 入	
	41年度よりの繰越	1, 198, 715
	寄附金その他	3, 543, 421
	預金利子	39, 126
	雑 収 入	140
	収 入 計	4, 781, 402
2	支 出	
	事務用品費	12, 590
	印刷費	84, 987
	刊行費	188, 128
	会議費	16, 610
	運営費	234, 300
	調査費	178, 460
	現地派遣費	2, 847, 479
	現地報告会費	52, 598
	2月6日慰霊祭費	37, 739
	通信費	331, 110
	振替払込料	56, 210
	雑 費	5, 000
	支 出 計	4, 045, 211
3	現金・預金	
	現金	584
	振替貯金	64, 054
	普通預金	671, 553
	現金預金計	736, 191